【原著】

入試広報に関する受験生・保護者の動向の検討

――新潟大学入学者を対象とした入試広報アンケートの分析から――

並川 努，佐藤喜一，濱口 哲（新潟大学）

入試広報活動に関連する受験生や保護者の現状を把握することを目的に，新潟大学の新入生 2287 名および保護者 820 名を対象にした質問紙調査が行われた。「新入生および保護者が利用した広報媒体」「志望校選びにおいて重視していた点」「影響を受けた人物」の 3 点について検討が行われ，新入生と保護者の比較や学系別の比較結果等が報告された。これらの結果をもとに，より効果的な広報についての検討が進められることが期待される。

1 はじめに

18 歳人口の減少が叫ばれている中，優秀な学生を安定的に確保し続けていくことは大学にとって重要な課題の一つである。そのため，大学の研究や教育の質を高めていくことはもちろんのこと，様々な広報活動を通して受験生に大学の魅力を伝えていくことの重要性も，今後はさらに高まっていくと考えられる。しかし，入試広報をより効果的なものにしていくためには，受験生やその保護者の動向を継続的に分析，把握し，それを広報活動に活かしていくことが必要となってくると考えられる。

新潟大学においても，佐藤・中畝・濱口（ 2012 ）で紹介されているように，高校訪問や高校教員招聘事業（アドミッション・フォーラム）等，様々な形で入試広報活動を行っている。また，例年 4 月に新入生およびその保護者に対して「入試広報改善のためのアンケート（以下，入試広報アンケート）」を実施することで，その成果の検証を試みている。佐藤ほか（ 2012 ）では， 2010 年度に実施された新入生への入試広報アンケートの結果が報告されているが，この入試広報アンケートは， 2011 年度以降も一部改変を加えながら実施されている。そこで，本稿では 2012 年度に実施された入試広報アンケートの結果をもとに，受験生および保護者が志望校決定のプロセスにおいて，どのような形で情報を集め，何を重視しているのかを分析し，より効果的な広報のあり方について検討を行う。具体的には以下の 3 点を取り上げる。

まず，1 点目は「新入生および保護者が利用した広報媒体とその有用性」についてである。受験生やその保護者がどういった広報媒体から志望校の情報を得ているかについての情報は，入試広報戦略を考える上で重要な資料の一つである。佐藤ほか（ 2012 ）でも，利用実態については検討がなされているが，各媒体が受験生及び保護者にどの程度評価されているのかは十分に検討できていないため，その評価も含めた形で検討を行う。

2 点目は「新入生および保護者が志望校選びにおいて重視している点」である。効果的な広報活動を行うためには，受け手にとって意味のある情報，受け手が関心を持っている情報を整理して提供することも必要になってくる。そのため，ここでは新潟大学に入学してきた学生が何を重視して志望校選びを行ったのかについて検討を行う。

最後に，3 点目として志望校決定に際して

「影響を受けた人物」についても検討を行う。志望校を選択する過程で，受験生は親や教師，同級生などさまざまな他者から影響を受けることが予想される。受験生がどういった人の話や態度に影響を受けるかは，入試広報の対象を検討する上でも重要な情報の一つであると考えられる。特に新潟大学では，高校訪問や高校教員招聘事業等，高校の教員を対象とした広報にも大きな力を入れている。そのため，これらの効果を検証する上でも，高校教員が受験生に対してどの程度の影響力を持っているのかは重要な資料となると考えられる。

2 方法

2.1 調査協力者

新入生　2012 年度に新潟大学に入学した新入生 2460 名（編入生，留学生等を含む）を対象に調査を実施した。協力が得られたのは 2287 名（男性 1389 名，女性879名，不明 19 名）であり，全体の93.0%であった。

保護者　2012 年度の入学式に出席した新入生の保護者820名から回答を得た。入学者との関係では，父親212名，母親578名，祖父1名，祖母2名，その他・不明 27 名であった。

2.2 質問項目

利用媒体と有用性　「大学のホームページ」や「大学案内パンフレット」「オープンキャンパス」など，表1に示した 13 種類の広報媒体（イベント）について，新潟大学に関する情報を得るために利用（参加）したかを尋ねた。また，「利用した」と回答した場合には，それらがどのくらい役に立ったかを「1：まったく役に立たなかった」「2：どちらかと言えば役に立たなかった」「3：どちらともいえない」「4：どちらかと言えば役に立った」「5：かなり役に立った」の5件法で回答するように求めた。

志望校選びで重視していた点　志望校を選ぶ際に一般的に重視していたことを尋ねた。項目は「国公立大学であること」「興味のあるテーマの授業が開講されていること」等の 20 項目であり（表2），回答選択枝は「1：まったく重視していなかった」「2：どちらかと言えば重視していなかった」「3：どちらともいえない」「4：どちらかと言えば重視していた」「5：かなり重視していた」の5件法であった。

志望校選びで影響を受けた人物　「高校の先生」「母親」「父親」等の8項目それぞれについて，志望校を選ぶ際にどのくらい影響を受けたかを尋ねた。影響を受けた程度は，「1：まったく影響を受けなかった」「2：どちらかといえば影響を受けなかった」「3：どちらともいえない」「4：どちらかといえば影響を受けた」「5：かなり影響を受けた」の5段階で尋ねた。

2.3 手続き

新入生対象の調査は，2012 年4月6日から 10 日にかけて実施された学部の新入生オリエンテーション時に行われた。また，保護者に対する調査は，入学式当日に質問紙を配布回収する形で行われた。

なお，新入生と保護者のアンケートは，基本的には同一の項目を用いたが，それぞれ回答する立場に合うように一部表現の修正を行った。また，保護者のアンケートには「影響を受けた人物」の項目は含まれていなかった。

3 結果と考察

3.1 新入生および保護者が利用した広報媒体とその有用性

新入生が利用した広報媒体は，利用率が高い順に，「大学のホームページ（87%）」「大学案内パンフレット（84%）」「学部・学科のホームページ（78%）」「学部案内パ

表1 広報媒体の利用数及び評価

	新入生						保護者					
	利用の有無			利用した人の評価			利用の有無			利用した人の評価		
	順位	利用人数	(%)	順位	*M*	*SD*	順位	利用人数	(%)	順位	*M*	*SD*
大学のホームページ	1	1985	(86.8%)	5	4.1	0.8	2	611	(74.5%)	2	4.2	0.7
大学案内パンフレット	2	1918	(83.9%)	2	4.2	0.7	1	645	(78.7%)	3	4.2	0.7
学部・学科のホームページ	3	1766	(77.2%)	4	4.1	0.8	4	533	(65.0%)	5	4.1	0.8
学部案内パンフレット	4	1736	(75.9%)	3	4.2	0.8	3	582	(71.0%)	4	4.1	0.7
オープンキャンパス	5	1065	(46.6%)	1	4.2	0.8	5	308	(37.6%)	1	4.3	0.8
高校内にある大学の資料	6	1014	(44.3%)	6	4.0	0.8	7	295	(36.0%)	9	3.8	0.8
教員・研究室のホームページ	7	988	(43.2%)	10	3.7	0.9	8	287	(35.0%)	10	3.7	0.8
高校内での進学説明会	8	845	(36.9%)	11	3.7	0.9	6	306	(37.3%)	7	3.9	0.7
業者による進学情報雑誌	9	767	(33.5%)	12	3.7	0.9	9	237	(28.9%)	12	3.7	0.7
業者による進学情報のホームページ	10	698	(30.5%)	9	3.8	0.9	10	189	(23.0%)	11	3.7	0.8
業者主催の進学ガイダンス	11	514	(22.5%)	13	3.6	0.9	12	136	(16.6%)	13	3.5	0.7
高校主催の大学見学会	12	396	(17.3%)	8	3.8	0.9	11	153	(18.7%)	6	4.0	0.8
新潟大学主催の大学説明会	13	300	(13.1%)	7	3.9	0.9	13	93	(11.3%)	8	3.8	1.0

ンフレット（76%）」であった。これら4大広報媒体の利用率が他よりも高くなる傾向は，一昨年の結果（佐藤ほか，2012）とも同様であった。また，保護者の結果においても，これら四つが上位を占めていた（表1）。なお，パンフレットとホームページの利用率は，例年ほぼ拮抗しているものの，2012年度の新入生では大学，学部レベル共にホームページの方が多く，保護者ではパンフレットの方が利用者は多くなっていた。

また，これらの媒体が役に立ったかの評価では，四つの媒体に大きな差はなかったことから，ウェブの利用率が高くなってきたとしても，手に取ることのできる紙媒体の広報も引き続き重要であることが示唆される。

紙やウェブ媒体の物とは異なり，直接参加する形式のイベントである「オープンキャンパス」は，新入生の46.6%が「利用した」と回答していた。昨年度までの調査とは，質問の形式が若干異なるため，厳密な比較はできないものの，これらの数値は昨年，一昨年よりもやや多くなっていた。また，どのくらい役に立ったかの評価では，「オープンキャンパス」は，大学のパンフレットやホームページ同様上位になっており，利用者は相対的に少ないものの，受験生へのアピールという点では有用であることが示唆された。

なお，新入生を出身高校の所在地によって県内出身者と県外出身者に分けて集計を行うと，県内出身者では691人（70.2%）と多くの新入生がオープンキャンパスを利用していたことが示された。一方，県外出身者でオープンキャンパスを利用していたのは359人（29.3%）であった。

3.2 志望校選びにおいて重視している点

新入生及び保護者が，志望校選びにおいてどういった点を重視しているのかについての結果を表2に示した。新入生・保護者いずれも「国立大学であること」が最も重視されており，全体の87.9%が「かなり重視していた」と回答していた。

新入生では，「国立大学であること」に次いで「興味のあるテーマの授業が開講されていること」「入試科目が自分に合っていること」「国家試験，公務員・教員採用試験の合格率が高いこと」等の値が高くなっていた。一方，「マスコミ等で有名な先生がいること」等は，新入生・保護者ともにあまり重視されていないことが示唆された。

新入生と保護者の比較を行うと，「入試科目が自分に合っていること（$t(3066)=9.45$,

表2 志望校選びにおいて重視していること(新入生と保護者の比較)

	新入生			保護者		
	順位	*M*	*SD*	順位	*M*	*SD*
国公立大学であること	1	4.9	0.5	1	4.8	0.5
興味のあるテーマの授業が開講されていること	2	3.6	1.2	10	3.4	1.1
入試科目が自分に合っていること	3	3.6	1.3	2	4.1	1.0
国家試験，公務員・教員採用試験の合格率が高いこと	4	3.6	1.3	3	3.8	1.1
資格取得を支援する制度が充実していること	5	3.4	1.3	4	3.7	1.2
実験や実習，演習等が充実していること	6	3.4	1.3	8	3.4	1.1
サークル・部活動が充実していること	7	3.2	1.2	16	3.1	1.1
教育のサポート体制が整備されていること	8	3.2	1.2	5	3.5	1.1
学生生活のサポート体制が整備されていること	9	3.1	1.2	6	3.5	1.1
関心のあるテーマで研究をしている先生がいること	10	3.1	1.3	13	3.2	1.1
食堂などの福利厚生施設が充実していること	11	3.0	1.2	7	3.5	1.1
図書館が充実していること	12	3.0	1.3	12	3.3	1.1
少人数教育に力を入れていること	13	2.9	1.3	11	3.3	1.1
アドミッション・ポリシーが自分に適していること	14	2.9	1.2	14	3.2	1.2
出身高校から進学実績があること	15	2.8	1.4	9	3.4	1.3
大学のホームページが充実していること	16	2.8	1.2	15	3.1	1.1
他大学との交流・単位互換が活発であること	17	2.6	1.2	17	2.9	1.0
日本から海外留学する学生がたくさんいること	18	2.6	1.3	18	2.8	1.1
前年度の志願倍率が高くないこと	19	2.4	1.2	19	2.5	1.1
マスコミ等で有名な先生がいること	20	2.0	1.0	20	2.4	1.1

$p<.001$ ）」「食堂などの福利厚生施設が充実していること（ $t(3053)=8.42, p<.001$ ）」「出身高校から進学実績があること（$t(3063)=10.54, p<.001$）」等の項目は，保護者の平均値が新入生よりも有意に高くなっていた。これらの項目は，受験生本人よりも，保護者の方が強く意識していることが示唆される。

次に，新入生について，所属ごとに比較を行った。新潟大学では，全9学部を人文・教育・法・経済の4学部からなる「人文社会・教育科学系（以下，人社系）」，理・工・農の3学部からなる「自然科学系」，そして医学部，歯学部をあわせた「医歯学系」の三つの学系に分けることができるため，この学系ごとに集計を行った（表3）。その結果，いずれの学系でも「国立大学である」が最も高いことは共通していたが，いくつかの項目では学系による違いが見られた。例えば，人社系，医歯学系では，「国家試験，公務員・教員採用試験の合格率が高いこと」が「国立大学」に次いで高い値になっていた一方，自然科学系では，「国家試験」よりも「興味のあるテーマの授業が開講されていること」の方が高くなっていた。将来的に国家試験を受験する医歯学系や，卒業後公務員，教員になる学生が比較的多い人社系に比べ，自然科学系を志望する受験生にとっては，これらがあまり重視されていないことが示唆される。逆に，自然科学系が他よりも高い値を示していた項目は「関心のあるテーマで研究をしている先生がいること」であった。

また，人社系では「実験や実習，演習等が充実していること」が他の学系よりも低く，医歯学系では「アドミッションポリシーが自分に適していること」が他の学系よりも高くなっていた。これらは各学系の学問的な特徴とも関連させながら詳細に検討していく必要があるだろう。

なお，前節の利用広報媒体に関する設問で

表3 志望校選びにおいて重視していること(新入生学系別)

	人社系(n=1082)			自然科学系(n=869)			医歯学系(n=317)		
	順位	M	SD	順位	M	SD	順位	M	SD
国公立大学であること	1	4.9	0.5	1	4.8	0.5	1	4.9	0.3
国家試験，公務員・教員採用試験の合格率が高いこと	2	3.7	1.2	6	3.3	1.3	2	3.9	1.2
興味のあるテーマの授業が開講されていること	3	3.6	1.3	2	3.8	1.2	6	3.4	1.2
入試科目が自分に合っていること	4	3.6	1.3	3	3.7	1.3	3	3.7	1.3
資格取得を支援する制度が充実していること	5	3.5	1.2	7	3.3	1.2	5	3.6	1.3
サークル・部活動が充実していること	6	3.3	1.3	8	3.2	1.2	8	3.3	1.2
教育のサポート体制が整備されていること	7	3.2	1.2	9	3.1	1.1	10	3.2	1.2
学生生活のサポート体制が整備されていること	8	3.2	1.2	10	3.1	1.1	9	3.2	1.3
実験や実習，演習等が充実していること	9	3.1	1.2	4	3.5	1.2	4	3.7	1.2
少人数教育に力を入れていること	10	3.0	1.3	16	2.8	1.2	13	3.0	1.3
食堂などの福利厚生施設が充実していること	11	3.0	1.3	11	3.1	1.2	12	3.1	1.2
図書館が充実していること	12	3.0	1.3	12	3.0	1.2	11	3.1	1.3
出身高校から進学実績があること	13	2.9	1.4	15	2.8	1.4	18	2.6	1.4
関心のあるテーマで研究をしている先生がいること	14	2.9	1.3	5	3.4	1.3	14	3.0	1.3
アドミッション・ポリシーが自分に適していること	15	2.8	1.2	13	2.9	1.2	7	3.3	1.2
大学のホームページが充実していること	16	2.8	1.2	14	2.8	1.1	15	2.8	1.2
日本から海外留学する学生がたくさんいること	17	2.6	1.3	19	2.5	1.2	17	2.7	1.2
他大学との交流・単位互換が活発であること	18	2.5	1.2	17	2.7	1.2	16	2.8	1.3
前年度の志願倍率が高くないこと	19	2.3	1.2	18	2.6	1.3	19	2.3	1.2
マスコミ等で有名な先生がいること	20	2.0	1.0	20	2.1	1.1	20	2.0	1.0

はホームページが高く評価されていたにもかかわらず，ここでは「大学のホームページが充実していること」の項目は新入生，保護者ともに低い評価となっていた。これは，ホームページが充実していることは既に前提となっており，それが充実しているか否かが特に重視されることはないという現状を表していると考えられる。ホームページ等に関する項目については，今後はもう少し具体的な内容の項目に修正するなど，何らかの検討が必要である。

3.3 影響を受けた人物

最後に，新入生が志望校決定において，誰の話やアドバイス等から影響を受けたかについて分析を行った。全体では「高校の先生」が 3.6(SD=1.4) と，最も高くなっていた（表4）。この結果から，志望校決定において高校教員が受験生に与える影響は，父親や母親が与える影響よりも強く，入試広報活動において高校教員が重要な対象であることが改めて示唆された。

しかしながら，先行研究では必ずしも一貫して高校教員の影響が強いと報告されているわけではない。例えば，北澤・渡辺・上野（2012）による都内T大学入学志願者を対象とした調査では，情報収集の際に役に立った情報源として「家族，知人等からの話」を選ぶ割合が「学校・予備校の先生」を選ぶ割合よりも高いことが報告されている。また，筑波大学入学者を対象とした本多・島田・大谷・高野・関・佐藤・白川（2011）の調査でも，「入学を決めた決定的な助言者」として挙げられた割合は「高等学校教員」と「家族」で大きく異なっているようには見えない。これらはいずれも本調査とは質問項目や形式，調査対象者も異なっており，直接比較することはできないが，高校教員だけでなく，家族の影響力も決して小さくないことを示唆していると言えるだろう。特に本調査では，家族を「父親」「母親」「兄弟姉妹」それぞれに細かく分けて聞いているため，評価

表4 新入生が影響を受けた人物

	全体			人社系			自然科学系			医歯学系		
	順位	*M*	*SD*	順位	*M*	*SD*	順位	*M*	*SD*	順位	*M*	*SD*
高校の先生	1	3.6	1.4	1	3.7	1.4	1	3.5	1.4	2	3.1	1.5
母親	2	3.1	1.4	2	3.2	1.4	2	3.0	1.4	1	3.3	1.5
父親	3	2.9	1.5	3	2.9	1.5	3	2.8	1.4	3	3.0	1.6
高校の同級生	4	2.7	1.5	4	2.8	1.5	4	2.6	1.4	4	2.5	1.5
高校の先輩	5	2.2	1.4	5	2.3	1.5	5	2.1	1.4	7	2.0	1.3
学習塾や予備校の先生	6	2.1	1.5	7	2.1	1.5	6	2.1	1.4	5	2.5	1.6
兄弟姉妹	7	2.0	1.3	6	2.1	1.4	7	2.0	1.3	6	2.1	1.4
大学の先生	8	1.7	1.1	8	1.6	1.1	8	1.7	1.1	8	1.6	1.1

が「高校の先生」全体よりも低くなった可能性も指摘できる。今後も受験生がどういった人から情報を得たり，影響を与えられたりしているのかについて検討していく必要があるだろう。

また，学生の所属学系別でも集計を行った（表４）。その結果，三つの学系の中で，高校教員の影響が特に強いのは人社系であった。さらに，人社系は「高校の同級生」や「高校の先輩」からの影響も，他の学系よりも強くなっていた。このことから，高校への働きかけが相対的に有効なのは，人社系の受験生であることが示唆される。

また，医歯学系では，「学習塾や予備校の先生」からの影響が他の学系に比べて強いことが示された。学科単位で見ていくと，この「学習塾や予備校」の影響は，特に医学部医学科（M=2.9, SD= 1.7）や歯学部歯学科（M=3.0, SD=1.7）で強くなっており，これらの学科では「高校の先生」と同程度の値になっていた。ここから，学問分野の特性や，受験の難易度によっても影響力を持つ人物が異なることも示唆される。

また，父母兄弟などの家族のメンバーの中では，母親の影響が一番強いことが示された。学系別にみると，特に医歯学系において母親の値が高くなっており，高校教員と同程度の影響力があることがうかがえる。

4 まとめ

本研究では，新潟大学の新入生とその保護者を対象にした入試広報アンケートの調査結果を報告した。今回得られた知見には，新潟大学，そして 2012 年度入学生に固有の側面も多いと考えられ，必ずしも受験生一般にあてはまるわけではない。しかしながら，これらのデータを蓄積し，他の研究による知見とも照らし合わせながら分析を行っていくことは，入試広報のあり方を考えていく上で重要なことであると考えられる。

参考文献

本多正尚・島田康行・大谷　奨・高野雄二・関　三男・佐藤真紀・白川友紀 (2011). 大学入試広報と入学者の利用する情報源の差異およびその評価　『大学入試研究ジャーナル』, 21, 69-74.

北澤　武・渡辺美紀・上野　淳 (2012). 一般入試選抜を対象とした入学志願者の傾向分析――過去３年間の入学志願者アンケート調査分析から――　『大学入試研究ジャーナル』 , 22, 163-171.

佐藤喜一・中畝菜穂子・濱口　哲 (2012). 新潟大学における入試広報戦略と新入生への入試広報アンケートによる入試広報活動の点検　『大学入試研究ジャーナル』 , 22, 309-316.